

社長メッセージ

常に理念に立ち返り

「生命を守る」ための事業活動に邁進

シップヘルスケアグループの社長に就任し、4年目を迎えました。

古川会長をはじめ、創業者の皆様の思いが込められた「SHIP」という揺るぎないグループ経営理念のもと、事業活動としての舵取りを進めてきました。多くの経営課題に直面するたびに、理念に立ち返ることの大切さを感じます。

— 超高齢化社会への突入と当社グループの事業環境

少子高齢化の進展により社会保障費がどんどん膨らむ一方で、労働力人口の大幅な減少で税収が減り、医療や介護に必要な資源の確保が難しくなっています。今後は、医療サービスに必要な人財の確保や、医療体制の維持も困難になります。



今後は「団塊の世代」と言われる方々が後期高齢者となり、より多くの医療サービスが必要になるため、医療サービスの需要はしばらく増えますが、その後の人口減少で、市場自体が縮小に向かうものと見えています。

厳しい事業環境の中でも、古川会長の言葉にもありますとおり、当社グループは、「生命を守る」ことから目を背けません。このような時代だからこそ、医療サービスに携わる人々の労働環境の整備に配慮しながら、サービスを提供することが求められています。

— 2024年3月期を振り返って

2024年3月期(前期)は、世界的な地政学的リスクの顕在化や、物価高など、不安定な経済状況が続きました。こうした中当社グループは、トータルパックプロデュース事業において、ミャンマーの政情不安などの影響を受けたものの、お客様のご要望に応えることで、売上高、営業利益ともに、創業以来最高の業績を達成しました。

この主な要因は3点あります。1点目はプロジェクト案件の堅調な進捗、2点目はメディカルサプライ事業の好調、そして3点目はキングラングループの売上貢献です。

営業利益の増益要因は、1つには、売上高同様、トータルパックプロデュース事業におけるプロジェクト案件、メーカー系が好調に推移したことがあります。

— 解決すべき足元の課題

「生命を守る」ための事業活動であることを踏まえサービスの質と量を、ともに拡大させていくことが、今後の大きな

課題です。

近年は、医療サービス業界においても、DX化の波が押し寄せており、こうした流れに対応していくこともまた、「生命を守る」ための事業活動の充実につながると考えています。そのため、今後はIT関連のスキルやノウハウを持った人財の採用を積極化し、既存の人財についても、デジタル人財の育成を急ぎます。

— 中期経営計画「SHIP VISION 2024」の進捗

3か年の中期経営計画「SHIP VISION 2024」は、2025年3月期(今期)が最終年度となります。経営数値目標としては、最終年度となる2025年3月期において、売上高6,400億円、営業利益260億円を掲げておりました。ただし、足元での業績の好調もあり、これ以上の達成を目指す考えです。また営業利益については、現状を踏まえ、中期経営計画発表当初、ミャンマー事業として見込んでいた数字については、他の事業セグメントですべてカバーするよう注力します。

— ビジネスモデルの進化と今後の成長

これまで当社グループでは、トータルパックプロデュース事業での発想力を活かし、その他の事業を拡大させてきました。今後も引き続き、トータルパックプロデュース事業をグループの基幹として捉え、さらなる高収益事業に育てます。加えて、面展開を進めているメディカルサプライ事業を、グループの基幹であるトータルパックプロデュース事業につないでいくことが、今後の重要な課題です。課題の解決により、メディカルサプライ事業で得られる豊富な情報を起点

とした循環モデルを強化します。

また今後は、グループ社員全員が、自分が携わる事業領域のみにこだわらず、グループ全体のポートフォリオを俯瞰し、横連携&縦連携が行えるような企業風土を醸成します。

「生命」を最優先で捉え、全力で取り組む姿勢はこれからも持つべきであり、時代に応じて社会が求めるサステナビリティ課題に対し、柔軟に対応していくことも重要です。そのバランスを考えて経営をすることは、社長としての重要な使命です。

—「グループ理念」を抛り所にし、
当社グループとしての存在感を発揮する

人々がより良く生きることを支える、Well-Beingな社会を実現させていくには、医師の方々をはじめとする多くの医療従事者の方々、民間企業、行政など、さまざまなステークホルダーの方々との共創が必要です。今後は、こうした方々を上手に繋ぎあわせる「接着剤」のような役割を果たすべきで、そのためには、私たちができることを増やし、仲間を増やすことが重要です。私たちは今後も、持ち前の「コンサルティング力」と「プロデュース力」で、経営資本の拡大を図りながら、グループ内シナジーの最大化を目指します。当社グループの3代目社長として、胸を張って次の世代にバトンを渡せるよう努力を重ねます。

当社グループの今後の活躍に、どうぞご期待ください。

代表取締役社長

大橋 太

